

2025年5月18日（日）第二礼拝「天の御国のからし種の比喩」マタイ13章31～32節

イエス様の説教の多くは、天の御国についてでした。イエス様はご自分の国について分かりやすく語り、教えられました。今回は天の御国をからし種に例えて語られたところです。

第一番目、拡張性です。からし種は極めて小さな種ですが、四～五メートルの大きさに生長し、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどになります。からし種のように、神の国の働きは、人の目に見えないほど小さなところから始まります。神様はアブラハムを選び、彼の子孫を通してイエス・キリストをこの地上に送られました。ユダヤ人はイエス様をこの地に送るためのルーツであり、彼らを通して聖書が与えられました。この福音の種はイエス様ご自身であり、聖霊によって私たちにいのちを与え、救いをもたらすように設計されています。今では、世界に二十一億人のクリスチャンがいると言われています。神の御国の福音は、空の星のように多くの救いに繋がり、これからもますます広がっていくでしょう。一億二千万人の日本人が救われ、イスラエルが国家的に救われる時、イエス様は再臨されます。

第二番目、隠密性、内密性です。「…『神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は目を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。』（マルコ4：26～27）からし種は小さく、目立ちません。地中でひそかに育っていきます。神の国の福音の種も同様です。神の国は人の力ではなく、神様の力によって生長し、広がっていきます。これは、生長の神秘です。種はイエス・キリスト、つまり御言葉であり、地中とは十字架です。種が地に落ちて死んで、豊かな実を結ぶとは、イエス様の十字架の死と復活を表します。私たちが御言葉を受け、イエス様の十字架の死と復活を信じる時、聖霊によっていのちが注がれ、神の国の実を豊かに結ぶようになるのです。イスラエルから始まった福音伝道は、現在、ギリシャ、イギリス、アメリカ、アジア諸国、イスラム圏にまで及んでいます。御言葉を語り続けるなら、神の国は広がり続けるのです。

第三番目、イエス・キリストにある安息です。先日、アメリカの大統領がシナイ山のあるサウジアラビアに訪問しましたが、サウジアラビアは四千年ぶりにその門を開きました。また、カタールやシリアの大統領にも面会しました。アメリカの大統領とその訪問団は、ほとんどがクリスチャンであり、中東の門が彼らに開いたことは画期的な出来事でした。空の鳥が安息を得るためにその木に飛んで来て巣を作るように、この出来事はイエス・キリストに安息を求める動きであり、中東の門が福音のために開いたことを啓示していると言えるでしょう。「…聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」（使徒の働き1：8）イエス様は、私たちに福音宣教のための情熱を注いでくださいました。これまで、アメリカも韓国も経済が祝福され、多くの宣教師を世界に送ってきました。経済が祝福される理由は、この宣教の働きのためです。私たちがイエス・キリストの死と復活の福音を語り続けるなら、経済も祝福され、神の国の実を豊かに結ぶようになると思います。